

同年二月二百石の加恩、ついで元慶米
 をついでついで相摸國老田郡の内に
 ありてとて二百石を知行と同十
 六年四月中奥の番士一轉任家藩
今の小普請
 長谷川能之助
 正光の祖なり

長谷川

藤之坊藤原長盛ミナモトの二弟長久チカヒサなり
 二田家駿河よき寛永兄弟八年シタ人家
 安アサヒのい向井は勢も正重の養子なり
 なる長盛より藤太師のい家
 東照宮へはうまの里關東へ移りせ
 流人の後沙上洛のより市に沙旅館に
 近郷よりして沙料の地を置せり

手長盛一、鳩田の清代官と命
せられ同國志太郡のりよひて米地
あ十石をよひ粟米二百俵をまゝ、後よ
台徳院殿よ七産のそのをまひせらる
小清書と賜り、慶長十九年四月廿日
死家と法名を長盛と稱ひそり子
藤玄治長親みも駿河の生れしとて寛永
とりのほつと藤を席と稱ひ家
禱

東照宮よはつとすまらつてお侍して清
代官を勤む其後仰つかうとす
紀伊大納言頼宣卿の附屬せられ寛永元
和八年七月廿日死家と法名長白とす
其子藤玄治長勝みも駿河の生れ寛永也
もきつめ、孫を席とひい実を長谷川
藤右衛門長次り子あり長親よ養ひ寛永
元和九年遠跡とほきて鳩田の代官と

勅し正保元年私財を費して岩を
鑿らり大井川の水を引て三千石
餘の鰲田を開くははよりて其祖
税のより十と賜ふ
家譜 今の伊原
番頭長谷川藤太郎長
七五つ長つ総つ三市を傳長久り三男
なり

東照宮に仕りまゝ關東出入國の時

檢地の事と奉り後出代官とほむ
其後仰と奉りお換國三浦郡橋頭
村より一寺を造りて是より
先何れの山陣の時も僧舎一字と焼却
せしむしは觀音の木像一軀のり
長徳より引渡りし此度是をかり
寺よ安並し後十八石の地を寄附
せしむ是を海寶院と號し家譜長徳